

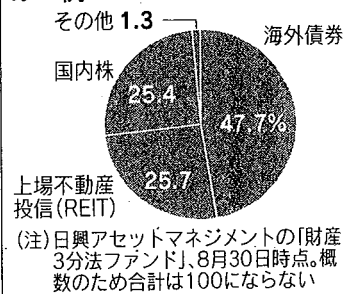
少額投資非課税制度（日本版ISA＝NISA）では、買った金融商品を5年間の非課税期間の途中でも売れる。しかし、いったん売るとその分は非課税枠がなくなる。つまりNISAでは、相場動向をみて売買し運用資産を入れ替えることができない。

非課税枠は年100万円の投資を上限として、運用リスクがひとつの金融商品に集中するのを避けるのが難しくなる場合もある。特に、

わかる投資 NISA 活用のツボ ⑦

投信で機動的な運用めざす

「バランス型」投信の運用内容の一例



上場株式の個別銘柄では複数の銘柄をばらばらに買ってしまうと、非課税枠が狭くなる。このように制約がある例え、トヨタ自動車とか、プロが相場状況に応じて機動的に運用して

買っ場合を考慮しよう。両社とも株価が6000円台で売買単位が100株だ。この2銘柄を通常の手続きで買うと最低でも合わせて1

バランス型は分散効果

れる投資信託の購入を考してくれるわけだ。金融各社は、株価指数を上げる人もいるだろう。そこで、金融機関はさまざまな資産を組み入れる「インデックス型」の「バランス型」と呼ぶ投信に力を入れている。運用内容が分かりやすく、投資家が負担する運用コストも、独自運用を手掛ける他のファンドに比べて相対的に安い。

「NISAで投資を始める初心者には、バランス型やインデックス型の投信が向いている」(フアイナンシャルプランナーの神戸孝氏) という専門家の声もある。